

中央教化団体連合会刊・雑誌『常会』（1939-1944）の所蔵状況・目次一覧

著者	須田 将司
著者別名	SUDA Masashi
雑誌名	東洋大学文学部紀要．教育学科編
巻	44
ページ	19-57
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00010812/

中央教化団体連合会刊・雑誌『常会』（1939-1944） の所蔵状況・目次一覧

須田 将 司*

本稿は、これまで散逸が激しく研究対象に取り上げられることが稀であった中央教化団体連合会の雑誌『常会』について、所蔵及び目次一覧を作成することにより研究基盤の整備を図ろうとするものである。この調査収集の作業により59号中48号の所蔵と、57号分の目次が判明した。

キーワード：中央教化団体連合会／常会／教化町村運動／教化運動

1、雑誌『常会』の書誌情報と所蔵状況

本稿は、これまで散逸が激しく研究対象に取り上げられることが稀であった中央教化団体連合会の雑誌『常会』について、研究基盤の整備のため、所蔵及び目次一覧を作成したものである。

中央教化団体連合会に関して、文部省『学制百年史』では「特に、昭和四年九月教化総動員運動の開始によって、文部省はいっそう教化活動を推進する方策をとった。三年には、財団法人中央教化団体連合会が設立されていた」と、「国民教化」を推進する官製運動を支えるべく組織化されたことが言及されている¹。その設立経緯を明らかにした山本悠三は、明治末年の地方改良運動や大正の民力涵養運動、関東大震災後の「国民精神作興」といった官製運動のなかで設立されてきた教化団体の全国組織がルーツであったことを辿り、「結成時点では東京にあった教化団体を中心に組織されたが、その後（中略）昭和三（一九二八）年四月新たに中央教化団体連合会を設置することになった」と述べている²。

中央教化団体連合会はこれと前後して、1924（大正13）年から毎年全国大会を開催し、1930年8月には機関誌『教化運動』³を発刊、1933年以降に教化町村運動を展開して国民教化の具体的方策として町内会・部落会・隣組や市町村単位での「教化常会」の開催を推進し、農山漁村経済更生運動・選挙粛正運動・国民精神総動員運動と1930年代に

連綿と続いた官製運動のなかで活発な活動を展開していった。国民精神総動員運動における常会拡大の動きを受けて、1939年には文部省が社会教育分野における新たな方法として常会に着目し、1939年6月26日文部次官通牒「常会ノ指導施設ニ関スル件」を発して常会未設置の町村指導と常会運営方法の開拓について単年事業の実施を要求している。内務省もまた、国民総動員体制確立へ向けた部落会・町内会組織化の具体的運営方策として常会に着目し、同年9月14日に内務省地方局長通牒「市町村ニ於ケル部落会又ハ町内会等実践網ノ整備拡充ニ関スル件」を発したほか、翌1940年9月11日には内務省訓令第17号「部落会町内会等整備要領」を訓示して本格的な常会指導に乗り出していった⁴。

このような動向の下、1939年7月に創刊されたのが雑誌『常会』である。同年5月、中央教化団体連合会の機関誌『教化運動』に掲載された「創刊の辞」には、以下のように「全国常会運動」に向けた意欲が記されている。

（前略）本会指定の教化町村に、或は特定都市の実際に試みらるゝや（中略）今や正に決河の勢をもつて全土に波及するに至つた（中略）全国常会運動の参謀本部たるの自負のもとに、渾身の熱誠をこめて、その実際指導者たる使命を果たすべく、その責務の大半をまづ雑誌「常会」の創刊に分担せしむることを決意した。

*すだ まさし 東洋大学文学部教育学科

既に1930年代に展開していた教化町村運動において、様々な試行錯誤の事例が生み出されていた。雑誌『常会』は、毎号「常会現地報告」に類する項目を設け、教化町村運動で見出されたノウハウを全国に伝搬する機能を果たしたと考えられる。

管見の限り、これまで『常会』を用いた先行研究は、須田将司『昭和前期地域教育の再編と教員』(2008)と、山本悠三『近代日本の思想善導と国民統合』(2012)があるのみである。山本は、その所蔵状況について「立命館大学図書館と東京市政調査会市政専門図書館に所蔵されているが、昭和十四年分の全部と昭和十五年の九月号まではいずれの図書館でも欠本である。その後も欠本が多く、昭和十七年二月以降になるとまとまった冊数が残されている」と述べている⁵。その後、筆者が調査したところ東京大学近代日本法政資料センター（明治新聞雑誌文庫）と北海道立図書館の所蔵が確認でき、さらに古書購入により所蔵不明巻号の収集が進んだ。現段階で管見の限り1939年7月の創刊号から1944年6月発行号までの59号中48号の現存が確認できた。これを一覧したのが表1である。

2、雑誌『常会』の目次一覧

表1の中で所蔵不明号（ハイフン）が11号分あ

るが、同時代の中央教化団体連合会機関誌『教化運動』に掲載の広告に目次が掲載されている。これをもとに1944年4月号を除く9号分を補うことができた。結果として、59号中57号分の目次が判明した。これらをまとめたものが表2である。官僚・政治家・各地の実践報告など、「全国常会運動」に寄せられた当時の論説・実践の様相を窺うことができる。これにより、これまでの教育史・近代史・政治史・思想史などで十分に検討対象となつてこなかった中央教化団体連合会の人脈・活動について、手がかりを得ることもできよう。本稿を基礎資料とし、今後の研究が発展することとなれば幸甚である⁶。

【凡例】

- 1、題名・地名の旧漢字は原則当用漢字に改めた。
- 2、人名は旧漢字のままとした（ワープロ表記可能なものに限る）。
- 3、副題や筆者名・所属について、誌面から判明し得るものは可能な限り加筆した。
- 4、ページ数については、漢数字を半角数字に改めた。

表1 『常会』所蔵状況

巻	発行年月	号	所蔵機関・者
第1巻	1939年7月	1	須田
	1939年8月	2	須田
	1939年9月	3	—
	1939年10月	4	須田
	1939年11月	5	須田
	1939年12月	6	—
第2巻	1940年1月	1	須田
	1940年2月	2	—
	1940年3月	3	東京大学近代日本法政資料センター（明治新聞雑誌文庫）
	1940年4月	4	—
	1940年5月	5	—
	1940年6月	6	—
	1940年7月	7	—
	1940年8月	8	—
	1940年9月	9	—
	1940年10月	10	立命館大学・須田
	1940年11月	11	立命館大学
	1940年12月	12	立命館大学・須田

第3巻	1941年1月	1	須田
	1941年2月	2	須田
	1941年3月	3	須田
	1941年4月	4	立命館大学
	1941年5月	5	立命館大学
	1941年6月	6	立命館大学
	1941年7月	7	須田
	1941年8月	8	須田
	1941年9月	9	立命館大学
	1941年10月	10	須田
	1941年11月	11	須田
	1941年12月	12	須田
第4巻	1942年1月	1	(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1942年2月	2	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1942年3月	3	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館
	1942年4月	4	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1942年5月	5	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1942年6月	6	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館
	1942年7月	7	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1942年8月	8	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1942年9月	9	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1942年10月	10	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1942年11月	11	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1942年12月	12	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
第5巻	1943年1月	1	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年2月	2	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館
	1943年3月	3	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年4月	4	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年5月	5	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年6月	6	(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年7月	7	(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年8月	8	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年9月	9	(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年10月	10	(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年11月	11	立命館大学所蔵・(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1943年12月	12	(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館
第6巻	1944年1月2月合併号	1	(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館・須田
	1944年3月	2	(財) 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館
	1944年不明	3	—
	1944年不明	4	—
	1944年7月	5	北海道立図書館

※立命館大学図書館OPAC、東京大学近代日本法政資料センター（明治新聞雑誌文庫）OPAC、後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館OPAC、北海道立図書館OPAC参照。所蔵不明はハイフンとした。

表2 『常会』 目次一覧 (1939年7月～1944年7月)

年	元号	月	巻	号	題名	執筆者その他	頁
1939年	昭和14	7	1	1	巻頭言		1
					◇創刊の言葉		2
					◇明治天皇御製謹解	文学博士 佐々木信綱	12
					支那事変をめぐる世界の動き	法学博士 米田 實	14
					◇長期建設	法学博士 下村海南	18
					諸名士の賛辞		
					将来の発展を俟つ	文部大臣 男爵 荒木貞夫	4
					自治信仰の關鍵	内部大臣 侯爵 木戸幸一	4
					常会運営の好指針	内閣情報部長 横溝光暉	6
					切に発展を祈る	厚生省臨時軍事援護部長 新居善太郎	6
					正しき指針を提示	農林省経済厚生部長 井出正孝	7
					絶好の相談相手	国民精神総動員中央連盟会長 有馬良橘	8
					指導者の好伴侶	産業組合中央会副会頭 千石與太郎	8
					双手を挙げて賛意	全国町村長会長 岡崎 勉	9
					衷心慶賀に禁へず	全国市長会々長 山隈 康	9
					着実にしっかりと	農学博士 小野武夫	10
					一元的生活の実現	大日本報徳社副社長 佐々井信太郎	10
					◇出直した国民精神総動員に就て	国民精神総動員中央連盟理事 青木得三	23
					常会講座 (第一回)	本誌編集部	26
					◇百億貯蓄は如何してやるか (一問一答)	大蔵省国民貯蓄奨励局次長 木内四郎	57
					—全国各地の常会展望—		
					◇東京市の町会を整備した話	東京市 平林廣人	40
					◇連区常会をこんな風に開く	名古屋市社会教育主事 石田利作	42
					◇高知県の常会風景	高知県社会教育主事 大川與平	47
					◇部落常会でこんな成績をあげた	三重県阿山郡島ヶ原村 増森彦兵衛	50
					◇仕事を打合はすのが眼目	岡山県高陽村長 國鹽達太	53
					常会指導の秘訣を語る座談会 (第一回)		64
					◇常会と笑ひ	加藤咄堂	17
					◇指導者は悩む	秋田県下北手小学校長 小田島留吉	32
					常会相談所	本誌編集部	74
					◇和氣溢る、満月会 高知県大和田部落の常会は	農林省経済厚生部 丹羽四郎	90
					◇農繁期の食物	高良富子	86
					百の議論より一つの実行	本会理事海軍大将 野村吉三郎	94
					◇常会通信		92
					◇常識講座		84
					◇原稿募集		56
					◇七月の申合事項		39
					◇官庁ニュース		73
					◇常会に応はしい娯楽		89
					編輯後記		96
					◇征く日まで (紙芝居)	秋田光二	76
					表紙・常会の集ひ	小野里主計 画	
					グラビヤ・生命の躍動・あの町この村・聖戦二周年		
1939年	昭和14	8	1	2	巻頭言		5
					彌高き御聖徳を拝し奉りて一榛名艦上に一瞬の感激—	宮内省参事官 子爵 本多猶一郎	6
					戦時体制下の国民生活刷新方策—常会ですぐ申合せて実行しませう—	国民精神総動員委員会幹事本会幹事 古谷敬二	13
					部落民と部落中堅	農学博士 小野武夫	10
1939年	昭和14	8	1	2	物資動員計画に就て	企画院第四部長 植村甲午郎	18

1939年	昭和14	8	1	2	常会指導の秘訣を語る座談会（第二回）		22
					事変下の選挙肅正 部落常会の活動に期待	内務省地方局 児山忠一	20
					一家言		
					和は愛によりて	高島米峰	38
					婦人と常会	高良富子	40
					戦場風景（画と文）	長坂春雄	72
					東京の貧民街を語る	高木武三郎	29
					常会講座（第二回）		57
					指導者は悩む	埼玉県大瀧村長 磯田正則	68
					常会の展望		
					一致で常会運営	愛知県吉田町 児山壽一	46
					小倉市の御民組常会		49
					長崎県下の部落常会		52
					全県挙げて町村が常会	石川県地方課 大和七郎	55
					家移り（神戸市港区連区常会の一風景）		42
					常会相談所	本誌編集部	66
					港都長崎で見た常会二景	久津美竹夫	62
					常会道徳三ヶ条—先づこゝらから—	佐賀県教化連合会幹事 永竹浩洋	63
					銃後の感激		
					愛は強し—お婆さん達が六十歳の手習—	細川隆	34
					女丈夫の最後	松田寅十郎	70
					私の村でやってゐる農村料理	多田規矩郎	75
					銃後に於ける国民の覚悟	本会理事海軍大将 林銑十郎	94
					◇常会講座		92
					◇官庁ニュース		79
					◇八月の申合せ		81
					◇常会通信		86
					◇原稿募集		87
					◇常会に応はしい娯楽		87
					編輯余滴		96
					忠僕宇八（実話読物）	田部重治	88
					紅蓮尼	仙台・青葉荘 成田正毅	82
					表紙 青空のもと	柿原俊男 画	
					グラビヤ 夏二景・溢るゝ国力・銃前銃後		
1939年	昭和14	9	1	3	所在不明（『教化運動』第234号7面広告、1939年9月1日付）		
					皇后陛下の御歌を拝し奉りて	軍事保護院総裁 陸軍大将男爵 本庄 繁	
					国策早わかり		
					労務者銃後刷新班とは	厚生省指導課長 安積得也	
					金集中について	内務省地方局 藤森與作	
					誌上談話 急がず焦らず	本会監事 潮恵之輔	
					★融和事業と常会	本会理事長 松井茂	
					★常会の指導に就て	文部省成人教育課 小田成就	
					★常会網の完成に努めつゝ	相野田弥平	
					★共同炊事と農繁期託児所に徹底せる中根村	丹羽四郎	
					常会閑話	須永温司	
					川柳と修養	代田重雄	
					歴史小説 苦衷の出世	大草青波	
					感激美談徒弟の真心	金原正二	
					常会講座 政治・経済・外交・軍事		
					各地の常会運動の展望		
					県下の常会運動	新潟県	

				国民貯蓄八万円	広島県	
				檀紙村の村常会	香川県	
				感激あふれる部落常会	長崎県	
				児童常会指導の実際	和歌山県	
				婦人の頁 秋のきももの手入れ	高良富子	
				巷の声		
				□□にのぞむ		
				父兄へ家族から		
				社会は尚目ざむる要なきか		
				官庁ニュース		
				常会通信		
				本会彙報		
				☆常会に適はしい娯楽		
				☆九月の申合せ事項		
				短歌壇 俳壇		
				常会相談所 座談会 常会の裏を語る		
				表紙 秋晴れ	前田政雄 画	
				グラビヤ 実る秋・銃後も戦場・動乱の欧州		
				漫画 村の顔役	伊藤公平 画	
				巻頭言		3
				始めの行事		
				愛国の歌	文学博士 久松潜一	5
				射和村の村是		9
				官庁ニュース		68
				内外情報		50
				常会通信		42
				伝達と報告		
				欧州戦争と日本のたちば	法学博士 米田 實	16
				欧州戦争と我が国の経済	牧野輝智	20
				興亜の大業と国内刷新の断行	国民精神総動員委員会幹事 古谷敬二	24
				燃え上がる各地の常会		
				尊徳翁の遺教に拠る全県の常会運動	栃木県 (栃木県尊徳会主事 屋代勝壽)	29
				大都市の隣保班と常会	神戸市・港区	32
				旱害対策をんねる深刻な村常会	香川県・山田村	35
				多様な業態を一つに結ぶ組常会	愛媛県・吉井村旭組 (助役 内藤五郎)	38
				協議・懇談・申合		
				どうして銃後後援強化週間を実施するか		53
				こんな風に税制が改まる	三好重夫	55
				常会と物価問題	金沢市 蒲生欣一郎	58
				奈良県下の農繁期共同炊事について	奈良県経済部 鍵谷 巖	60
				慰問品・慰問文を出ませう		63
				常会講座 常会の種類		10
				精農を訪ふ	三重県射和村 茨木茂雄	44
				体験発表		
				風雨と闘ひ嘲笑を浴びつゝ、常会開設の二年間	熊本県 内田真藏	72
				少年の朝起きから全村が立ちあがる	長野県 木藤岩雄	76
				平安の餓人黄金を受けず		70
				— 巷の声 —		
				我等の職場より	岩手県 阿部良喜	79
				労力奉仕所見	広島県 平林正作	79
				ガソリンの浪費者	杉山省三	80

1 9 3 9 年	昭和 14	11	1	5	悪徳商人を訴ふ	台湾高雄 松井春光	80
					娯楽 常会に適はしい室内娯楽		82
					家庭と婦人	高良富子編	64
					常会教程		94
					終りの行事		
					常会に集る人・常会を指導する人	河原春作	87
					今月の心構		91
					歌壇	編集部選	92
					俳壇	編集部選	93
					銃後美談 濁水の人柱—台湾蕃界に咲く銃後美談—	岡戸栄吉	83
					編輯室より		96
					『常会の歌』懸賞募集		49
					表紙 秋深し	前田政雄 画	
					グラビヤ 菊花かほる・教化町比和の素描・銃後の相		
					漫画 結びは堅記	伊藤公平 画	
					巻頭言		3
					始めの行事		
					明治天皇の御聖徳	明治神宮宮司 有馬良橘	5
					岡山県赤磐郡高陽村の村是		9
					官庁ニュース		60
					内外情報		70
					常会通信		78
					伝達と報告		
					汪兆銘氏中心の新政権	大西 齋	27
					物価引上げ禁止	阿部賢一	31
					常会のコツを語る座談会		46
					各種常会運動の実相		
					報徳精神で結ぶ村常会	富山県・北般若村 松田富雄	10
					かうして常会を指導した	福島県・太田村 飯野次郎	13
					大阪市の常会	大阪市 大塚辰治	16
					常会がもとで女がこんなに活動を	長崎市水浦町 黒岩義嗣	20
					神人一体の部落常会	兵庫県・味間村 大雲黙堤	22
					協議懇談		
					浅瀬石村（青森県）の全村運動会	青森県 高谷勝之助	39
					精神作興詔書煥発記念日に就て		42
					電気・瓦斯・燃料の節約		44
					共同作業と分村計画を中心とする村の更生	丹羽四郎	55
					常会講座 常会の運営		34
					一巷の声—		
					裏	宇都宮 福田健次	76
					食料愛護	茨城 山本磁郎	76
					時間励行を強調す	神戸 中澤武夫	76
					小学教員から	東京 木曾二郎	77
					体験発表		
					無駄米三百万石	東京 杉山省三	63
					落部の推進を妨ぐるもの	福井県 石黒新右衛門	66
					家庭と婦人	高良富子編	72
					常会教程		94
					終りの行事		
					新嘗祭の意義	今泉定助	81
					恩返しのために働く		86

				歌壇		92
				俳壇		93
				編輯室より		96
				軍国美談		
				人情少尉と上等兵	萩原午郎	87
				白衣の勇士と盲目の母	末永扇哉	89
				●原稿募集		91
				所在不明(『教化運動』第239号12面広告、1939年12月1日付)		
				始めの行事		
				大正天皇を偲び奉りて	渡邊世祐	
				常会振興の心得	広島県比和町	
				☆内外情報・各省だより・常会通信		
				伝達・報告		
				欧州動乱はどう進むか	榊川彦松	
				百億貯蓄上半期の成績	大谷喜代造	
				知らねばならぬ最近の問題	外山良造	
				三好村を訪ねて	児山忠一	
				各地ではどんな風に常会をやつてゐるか		
				堺市の町内会	今西四良	
				愛媛県の常会運動の概況	泉田 一	
				進みゆく漁村の常会	静岡県静浦村	
				協議懇談		
				常会の指導者に就て		
				経済更生と生産増加計画	丹羽四郎	
				紀元二千六百年の新年をどう迎るか		
				家計簿を整理しましょう(申合せ)		
				常会講座 常会の運営(二)		
				☆農村と結核予防		
				体験研究発表		
				常会での話し方	加藤咄堂	
				十二月の家庭療法と薬草	栗原広三	
				年末の婦人の仕事	高良富子編	
				巷の声		
				農業保険・薪炭自動車界に告ぐ・教育者の気魄		
				☆川柳と教訓	代田重雄	
				和楽 教育紙芝居 同胞への誓ひ	金子登	
				軍事美談 若杉伍長の手記	後藤一夫	
				銃後美談 借耕牛と祐さん	土谷勉	
				☆洗濯物が乾けば住宅		
				★歌壇★俳壇★漫画★懸賞募集常会の歌当選歌詞発表		
				終りの行事		
				時局と国民の任務	後藤文夫	
				終りの挨拶 家族のような□		
				表紙 新年の一点景		
				グラビヤ 迎年祈世・伸びゆく日本・巷の風景		
				漫画 一年の計	伊藤公平 画	
				始めの行事		
				始めの行事の指導法		3
				紀元二千六百年の歳旦に方りて	本会理事長法学博士 松井茂	4
				村歌(埼玉県大瀧村)		8
				各省だより		
1939年	昭和14	12	1 6			
1940年	昭和15	1	2 1			

1940年	昭和15	1	2	1	常会通信		48
					伝達と報告		74
					伝達と報告の扱ひ		9
					ヨーロッパ戦争を望み見て	米田 實	10
					物資を活用ませう	戦時物資活用協会 横山正一	13
					内外特報	内閣情報部編	15
					常会指導の虎の巻公開座談会（一）		42
					協議懇談		
					協議懇談の扱ひ		26
					ゴム製品の配給に就て	商工省	27
					町内部落二千六百年の記念事業		
					文化の向上を目指して	内務省地方局振興課 児山忠一	31
					記念事業に対する希望	大蔵省国民貯蓄奨励局 大谷喜代造	33
					都市の常会に望む	文部省成人教育課 須永温司	34
					部落団体の一元化	農林省経済更生部指導課 丹羽四郎	34
					二千六百年の生活設計	岸田軒造	36
					国民貯蓄と株式投資	大谷喜代造	40
					常会講座 常会の運営（三）		20
					一巷の声一		
					街の酔漢	台湾 松井春光	76
					一将功成りて万骨栄ゆ	富山 雄峰栄峡	76
					正しい結核予防の途	大阪 浅野雄三	77
					体験・研究		
					体験研究発表の扱ひ方		50
					鶏の人工孵化の話	鈴木次也	51
					玄米七分搗きのおいしい炊き方	高良富子編	54
					井戸明府(時代小説)一民政家・石州の芋代官の善一和楽	太刀山弦月	80
					和楽		
					和楽指導法の注意		78
					蜜柑のせ遊び		79
					常会教程		94
					終りの行事		
					終りの行事の指導		87
					堅忍持久の精神を養へ	伯爵 林博太郎	88
					捧げの生活		92
					歌壇	編集部選	86
					俳壇	編集部選	93
					編輯室より		96
					体験の発表		
					常会の時間を厳守した話	宮城県伊具郡耕野村長 八島孝二	56
					常会指導に骨を折った話	青森県北津軽郡中川村長 秋田喜十郎	58
					常会に出席した主婦の話	新潟県高柳村 田邊とみ	60
					常会司会のコツを話す	岡山県吉備郡福谷村 森 金治	64
					常会の中だるみを救った話	石川県河北郡宇ノ気村 大和七郎	66
					最も得意とする常会の話	山形県西田川郡大泉村 皆川健蔵	68
					常会を初めて聞いた話	広島県佐伯郡平良村長 枝松五六	71
					○紙芝居脚本懸賞募集要項発表		30

所在不明 (『教化運動』第242号3面広告、1940年1月15日付)				
1 9 4 0 年	昭和 15	2	2	始めの行事 神武天皇と建国の精神 伝達と報告 オールストップの問題 大陸の農村を視察して 内外情報早わかり 座談会 ◆常会指導虎の巻公開その二 協議・懇談・申合せ 梅の節句をどうして奉祝するか 三号組合の資金をどう利用するか 報恩米の売却について 灰取り運動 常会講座 常会の指導一 体験・研究 本年の農業設計はどうするか 農村の栄養食について 各地ではどんな風に常会をやつてゐるか わが市の日章会の活動 わが町内常会の実況 わが村常会を語る 伍什人組と常会の近情 ★各省だより★常会通信 ☆歴史小説☆歌壇☆俳壇☆漫画☆常会教程 巷の声 終りの行事 祈年祭の意義 終りの挨拶、二月の心構へ
				文学博士 河野省三
				商工省
				日本農士学校□校 菅原兵治
				内閣情報部編
				古谷敬二
				斯波八郎
				秋田県経済部長
				帝国農会 石橋幸雄
				田中令三
				新居浜市
				唐津市京町
				秋田県七瀧村
				山形県長井村
				宮内省掌典 星野輝興
1 9 4 0 年	昭和 15	3	2	表紙 宮崎神宮 グラビヤ かすみ・村を家を明るく・興亜躍進譜 漫画 母性礼賛 紀元節に賜りたる詔書 始めの行事 始めの行事の指導法 内閣告諭 聖恩優渥 分度を立てること 常会だより 伝達と報告 伝達と報告の扱ひ方 支那中央政權はこゝまで進んだ 英米との関係はどうなるか 内外特報 本年の興亜生活運動 百億貯蓄の功績表彰 常会ところどころ 岐阜県に於ける常会運動 香川県山田村の部落常会 かうして家庭常会を 初めて観た常会所感 協議・懇談・申合せ
				伊藤公平画
				63
				4
				3
				5
				6
				8
				86
				9
				10
				13
				17
				22
				26
				28
				31
				33
				36

1940年	昭和15	3	2	3	協議・懇談・申合せの扱ひ方		39
					米の増産と飼料の増殖	若宮 梓	40
					購買販売の一元化について	江沼清四郎	44
					負債整理の実績を挙げた大和村	一記者	48
					今月の申合せ		51
					常会講座 常会の指導		52
					—国民の声—		
					教壇から	東京 木曾二郎	78
					わが辿らんとする道	原田三樹	78
					認識不足	台湾 松井春光	79
					物資配給上の注意	徳島 井上友五郎	79
					三月の行事		64
					体験・研究・発表		
					体験・研究・発表の扱ひ方		66
					井戸、風呂、便所衛生	警視庁防疫課長 医学博士 井上乘海	67
					もみから竈の話	森丘正唯	70
					無駄はないか無駄だらけ	高良富子編	72
					常会教程		94
					和楽		
					和楽指導法の注意		83
					常会体操の指導	松元稲穂	84
					支那の話	久志卓眞	80
					終りの行事		
					終りの行事の指導		89
					雛祭と彼岸	加藤咄堂	89
					人物を作りたい		93
					歌壇	編集部選	82
					俳壇	編集部選	88
					編輯室より		96
					日本刀の話	海軍少将 武富邦茂	74
					●紙芝居脚本募集当選発表		12
1940年	昭和15	4	2	4	所在不明（『教化運動』第246号 2面広告、1940年3月15日付）		
					始めの行事		
					詔書を拝して	国府犀東	
					伝達と報告		
					蔣政権の衰勢と日米外交の成行	米田實	
					予算を語る	阿部賢一	
					内外の新らしいお知らせ	内閣情報部	
					協議・懇談・申合せ		
					米の増産をどうしてやるか	秋田喜十郎	
					物価高に対する生活費の切り下げ方	岸田軒造	
					労力不足をかうして克服する	上野陽一	
					新入児童をもつ親への注意	青木誠四郎	
					常会ところどころ		
					本年の奉仕目標	名古屋市 榊原孫太郎	
					県下の常会運動	神奈川県 小野寺俊児	
					わが村の常会	宮城県 佐藤政次郎	
					ある日の部落常会	三重県 増森彦兵衛	
					研究発表		
					家庭に於ける応急手当	岡田道一	
					家庭婦人の心得帳	鈴木たま	

1940年	昭和15	5	2	5	和楽		
					あんま部隊	(本会募集当選紙芝居脚本)	
					常会の一分間体操	松本稲穂	
					終りの行事		
					市町村の自治について	中川望	
					四月の年中行事	編集部編	
					☆歌壇☆詩壇☆漫画☆常会教程★常会だより		
					常会講座 常会の指導 その三		
					所在不明 (『教化運動』第248号2面広告、1940年4月20日付)		
					始めの行事		
					武士道の精神	花見朔己	
					伝達と報告		
					新增税問答	大谷喜代造	
					物資の配給統制について	大橋英郎	
					小作料統制令	松村永一	
					新らしいお知らせ	内閣情報部	
					協議・懇談・申合せ		
					隣組でやりたい犯罪防止	和泉正雄	
					期節保育所の経営	飯沼すゑを	
					端午の節句をどう祝うか	安倍季雄	
1940年	昭和15	6	2	6	常会ところどころ		
					県下の常会運動	長野県 山浦国久	
					記念事業となつた部落常会	福岡県幸袋町	
					わが村の常会	島根県 鹽野麟三	
					研究発表		
					棉の作り方	神奈川県田島町 石井浪太郎	
					家庭婦人の心得帳	鈴木たま	
					和楽		
					教育紙芝居 誉れの家と人	浅野卓次	
					終りの行事		
					東郷大将の話	小笠原長生	
					☆歌壇☆詩壇☆漫画☆常会教程★常会だより		
					常会講座 常会の指導 その四		
					所在不明 (『教化運動』第250号2面広告、1940年5月15日付)		
					始めの行事		
					大祓について	植木直一郎	
					南洲先生の遺訓		
					伝達と報告		
					欧州動乱と我国の立場	鹿島守之助	
					なぜ戸数割を廃して市町村民税となつたか	内務省	
					物資の統制配給	商工省	
					百廿億貯蓄を目指して	大蔵省	
					新らしいお知らせ	内閣情報部	
					協議・懇談・申合せ		
					青年の離村をどうするか	菅原兵治	
					町内は清く美しくしたい		
					先人の業蹟顕彰について		
					常会ところどころ		
					知事の出る町内会	千葉市	
					わが村の常会	新潟県下黒川村	
					研究発表		

1940年	昭和15	7	2	7	艱難と闘ひ最上河原の開墾に邁進	山形県 高橋金次郎	
					古着の利用	鈴木珠子	
					常会体操	松元稲穂	
					終りの行事		
					戦時下国民の覚悟	大倉邦彦	
					終りの挨拶 哲人		
					☆歌壇☆詩壇☆漫画☆常会教程★常会だより		
					常会講座 常会の指導 その五		
					所在不明（『教化運動』第252号 5面広告、1940年6月15日付）		
					始めの行事		
					支那事変勃発三周年に際して	熊谷憲一	
					楠公遺訓抄		
					伝達と報告		
					戦時体制下切符制のはなし	村上倬一	
					精勤の地方機構はかうなる		
					新らしいお知らせ	内閣情報部	
					協議・懇談・申合せ		
					優れた町村を視察するには		
					町村幹部の講習はどう開くか		
					闇取引、買溜、売惜しみは止めませう		
1940年	昭和15	8	2	8	伝染病に注意ませう		
					常会ところどころ		
					常会見聞記 其他		
					研究発表		
					米の増産と病虫害対策	上遠章	
					和楽指導の体験	勝亦太平	
					学習のさせ方		
					青年村長は語る	三品久雄	
					終りの行事		
					日本精神と元寇撃滅	齋藤响	
					百姓		
					☆歌壇☆詩壇☆漫画☆常会教程★常会だより		
					常会講座 常会の指導 その六		
					所在不明（『教化運動』第254号 2面広告、1940年7月20日付）		
					始めの行事		
					時局下の思想指導	深作安文	
					勸農詞		
					伝達と報告		
					欧州戦争はどうなる	米田實	
					今秋行はれる国勢調査	福永與一郎	
					奢侈の禁止と新しい国民生活		
					新しいお知らせ	内閣情報部	
					協議・懇談・申合せ		
					農家で出来る農産物の加工	丹羽四郎	
					都会人の常会出席について		
					常会ところどころ		
					熊本県下の常会		
					千葉県豊浦村の常会		
					兵庫県宿南村の部落常会		
					岩手県彦部村の部落常会		
					広島県土生村の町内常会		

1940年	昭和15	9	2	9	研究発表		
					菊池権太郎氏を語る	鈴木連治	
					兄出征の後を守る	佐々木孝枝	
					和楽		
					(映画物語) 常会の唄		
					常会体操 (手を取り合って)		
					終りの行事		
					戦時下の国民生活に就いて	堀切善次郎	
					まこと		
					☆歌壇☆詩壇☆漫画☆常会教程★常会だより		
					常会講座 指導者論 (1)		
					所在不明 (『教化運動』第255号2面広告、1940年8月15日付)		
					始めの行事		
					秋季皇霊祭に就て	星野輝興	
					朗誦文		
					伝達と報告		
					新体制とはどういふことか	阿部真之助	
					近衛内閣の基本方策		
					満州青少年義勇軍	久保恵	
					新しいお知らせ	内閣情報部	
					協議・懇談・申合せ		
1940年	昭和15	10	2	10	草刈と堆肥の作り方		
					会合を少くしたい		
					歩く習慣をつけよう		
					彼岸と戦没勇士の墓参		
					常会ところどころ		
					富山県下の常会		
					茨城県古河町の常会		
					大阪府東能勢村の常会三部会		
					広島市千田町の常会		
					協議・発表		
					人を語る	高橋政一郎	
					家庭と婦人	鈴木たま	
					禁酒で更生した村	岩手県福岡村	
					和楽		
					浪花節台本・農土は微笑む		
					終りの行事		
					乃木将軍と家庭	伊豆凡夫	
					学校の先生から村の先生		
					☆歌壇☆詩壇☆漫画☆常会教程★常会だより		
					常会講座 指導者論 (2)		
1940年	昭和15	10	2	10	表紙 秋風		
					グラビヤ 秋空高し・街に拾ふ経済戦・戦時下の秋に鍛ふ		
					始めの行事		
					始めの行事の指導		5
					前線将兵の労苦と銃後国民の奉公	軍事保護院総裁陸軍大将男爵 本庄 繁	6
					時間励行六戒	神奈川県玉川村	11
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱ひ方		12
					君が代の由来と真の意義	和田信二郎	13
					国防国家とはどういふことか	陸軍省情報部陸軍少佐 鈴木庫三	16

1 9 4 0 年	昭和 15	10	2	10	部落会・町内会等の整備について	内務省振興課 児山忠一	20
					新しいお知らせ	内閣情報部	25
					常会講座 指導者論（3）		30
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		37
					教育勅語煥発五十年を迎えて	文部省成人教育課 藤川龍	38
					銃後奉公強化運動と兵隊さんありがとう運動		40
					農繁期に於ける労力奉仕の仕方	高柳加根吉	44
					常会ところどころ		
					東京府の常会	東京府社会教育主事 景山鹿造	48
					常会の成績と指導者	岡崎市	50
					苦労もあるがなくてはならぬ常会	高知県長浜町長 小松茂盛	52
					全村民一の心で	岡山県 富家村	54
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		56
					我が村の全村運動会	新潟県下黒川村	57
					青年の父岡林氏を語る—高知県壽原村孝山塾頭—	高知県Y・O生	59
					我が村の生活刷新	岡山県中和村	64
					家庭婦人の心得帖	鈴木珠子	67
					和楽		
					和楽指導の注意		69
					五分間万才		70
					◇常会教程		78
					終りの行事		
					終りの行事の指導		72
					新しい生活体制の確立	法学博士 松井茂	73
					町内会・部落会の持味		76
					▽短歌		77
					▽俳句		77
					編輯後記		80
1 9 4 0 年	昭和 15	11	2	11	表紙 紅葉する頃		
					グラビヤ 晩秋・みのりの秋・新体制結婚		
					巻頭言		5
					始めの行事		
					始めの行事の指導		6
					日本国・独逸国及伊太利国三国間条約締結に関する詔書		7
					内閣告諭		8
					弓と心		9
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		10
					日独伊三国条約について	湯川洋蔵	11
					明年の飯米問題	農林省嘱託 丹羽四郎	16
					新しいお知らせ	内閣情報部	18
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		22
					新体制と常会	企画院調査官 鈴木嘉一	23
					常会の出席をよくするには		28
					都会生活と共同炊事等について	東京市市民局 児玉寅槌	34
					紀元二千六百年を家庭で祝ひませう		38
					常会ところどころ		
					岡山県の常会	岡山県総務部 横山正人	58

1 9 4 0 年	昭和 15	11	2	11	我が村の部落常会	山形県・長井村	60
					光明へ棹さして	北海道東鷹栖村	62
					秋の夜に見る和やかな部落常会—鳥取県山守村明高部落の常会見学記—	寺岡	64
					部落の更生と常会	福島県市町村振興主事補 柴田正次	67
					隣組十二万 東京市の常会は進む		
					一二三会から常会へ 甲府市東青沼町一二三番地	鈴木静子	70
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		40
					国民食の研究	柴 八郎	41
					農村の家屋と保健衛生	竹内芳太郎	45
					物資の配給と常会	千葉県瑞穂村長 佐藤賢治	49
					石塚村長を語る	石塚村教化主任 村田徳雄	52
					家庭婦人の心得帖	鈴木珠子	56
					和楽		
					和楽指導の注意		73
					峠の幌馬車		74
					◇常会教程		85
					終りの行事		
					終りの行事の指導		78
					時局と国民精神の作興	文学博士 乙武岩造	79
					眼に見えぬ力		83
					▽短歌と俳句		84
					編輯後記		88
					表紙 父を送る		
					グラビヤ 浦安舞・全国教化大会・心一つに		
					巻頭言		5
					始めの行事		
					始めの行事の指導		6
					臣道実践と部落町内会の任務	内務省地方局長 留岡幸男	7
					教化綱領		10
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		11
					太平洋の将来戦	海軍中佐 阿部信夫	12
					東亜共栄圏の確立と蘭印	内閣情報部 湯川洋蔵	16
					新体制と下部組織	内閣情報部	22
					新しいお知らせ		26
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		31
					最近の木炭事情		32
					時局食料としての麦類の増産	丹羽四郎	36
					常会発展の三段階と指導者の心構へ	平林廣人	39
					部落と農事実行組合の調整について	神林村長 上條次郎	42
					虚礼廃止を実行ませう		44
					常会ところどころ		
					埼玉県の常会	持田清吉	45
					常会の運営私見	友清英夫	50
					我が町の常会の実際	石川県・美川町	53
					総て村長を中心に	愛知県・鳳来寺村助役 加藤淳	56
					軌道に乗って来た	徳島県・多家良村	59
					先づ準備が第一	佐賀県・兵庫村	65
					研究・体験発表		

1 9 4 1 年	昭和 16	1 3 1	研究・体験発表の扱い方		66
			田根奉公団の活動	田根青年学校長兼高等小学校長 中川俊一	67
			長野県浦里村長 宮下周氏を語る	長野県社会教育課 山浦國久	72
			家庭婦人の心得帖	鈴木珠子	76
			和楽		
			和楽指導の注意		80
			若き力（紙芝居脚本）		81
			終りの行事		
			終りの行事の指導		85
			常会の回顧と将来の展望	佐々井信太郎	86
			編輯後記		90
			表紙 長城に新春を迎える		
			グラビヤ 漁村曙・戦線の正月・農村演劇隊		
			巻頭言		5
			始めの行事		
			始めの行事の指導		6
			新体制と常会	中央教化団体連合会理事長 柴田善三郎	7
			伝達と報告		
			伝達と報告の扱い方		10
			日華基本条約について	湯川洋蔵	11
			町村部落内に於ける各種団体の調整について	内務省地方局振興課 児山忠一	14
			中小商工業者と職業転換	厚生省職業部総務課 栗栖幸男	18
			時局回覧板	情報局	22
			協議・懇談・申合せ		
			協議・懇談・申合せの扱い方		25
			新体制下の正月をどう迎えるか	大政翼賛会国民生活指導部	26
			常会日・常会時間の徹底	平林廣人	30
			常会ところどころ		
			静岡県の常会	静岡県社会教育課長 高島安	56
			我が隣組に就て	東京市本所区向島第三十隣組 田中猪太郎	59
			漁村の常会	岩手県・船越村	72
			水魔を克服して	埼玉県・川邊村	65
			村民の気風を刷新	岡山県・宇甘西村	70
			常会の模様は必ず報告	鹿児島県・喜入村	72
			村治は円満村民は自覚	青森県西平内村	74
			研究・体験発表		
			研究・体験発表の扱い方		48
			生活改善の実際	三重県飯南郡射和村長 堀木祐三	49
			家庭と婦人	金子しげり	52
			和楽		
			和楽指導の注意		78
			正月の遊戯二題		79
			終りの行事		
			終りの行事の指導		81
			新しい生活運動について	大政翼賛会国民生活指導部長 喜多壯一郎	82
			印象記		
			常会の研究 誌上座談会	司会中央教化団体連合会常務理事 古谷敬二	32
			常会の本質	文部省成人教育課長 小田成就	33
			指導者の問題	企画院調査官陸軍中佐 鈴木嘉一	36
			常会と政治教育	選挙肅正中央連盟幹事 松原一彦	40
			常会と婦人	市川房枝	42

				知識階級と常会	東京市市民局町会課常会係長 河野 栄	46
				編輯後記		88
1941年	昭和16	2	3	表紙 高千穂の峯		
				グラビヤ 雪の連山、農業増産報国推進隊、縄飛び		
				◇巻頭言		5
				始めの行事		
				始めの行事の指導		6
				常会指導者に望む	文部省教学局長官 藤野恵	7
				伝達と報告		
				伝達と報告の扱い方		10
				大政翼賛実践要綱に就て	大政翼賛会総務部長 松前重義	11
				本年度農業の重要問題	農林省嘱託 丹羽四郎	16
				国民学校今年度から実施		20
				時局回覧板	情報局	26
				協議・懇談・申合せ		
				協議・懇談・申合せの扱い方		30
				新体制の共同任務に就て	伊藤博	31
				部落会長・町内会長の任務と心構へ		36
				国民生活と体育運動に就て	厚生省体育官 栗本義彦	40
				常会ところどころ		
				一別荘地の隣組常会司会者として	横溝政八郎	70
				常会によって一村和合	石川県井上村 小西實知	71
				全村民歩調を揃へて	愛知県神戸村長 仲谷 泉	74
				主婦常会の開設について	秋田県下北手村 小田島留吉	76
				半島人も常会へ	福岡市 藤井十四三	78
				研究・体験発表		
				研究・体験発表の扱い方		61
				常会指導者と言葉	永竹浩洋	62
				家庭と婦人	金子しげり	67
				和楽		
				和楽指導の注意		80
				城址	清河忠雄	81
				終りの行事		
				終りの行事の指導		84
				肇国の精神と建国祭の意義	陸軍大将 鈴木孝雄	85
				常会の研究 誌上座談会	司会中央教化団体連合会常務理事 古谷敬二	48
				協議懇談のすゝめ方	中央教化団体連合会主事 宮西一積	48
				常会と和楽	文部省嘱託 権田保之助	50
				青年と常会	大日本青少年団総務部長 熊谷辰治郎	54
				衷心指導者の任務	内務省振興課 児山忠一	57
				◇短歌と俳句		66
				◇編輯後記		88
1941年	昭和16	3	3	表紙 増産へ協力		
				グラビヤ 子寶一家・銃後を固める各地の常会		
				◇巻頭言		5
				始めの行事		
				始めの行事の指導		6
				銃後は吾等の手で	軍事援護会理事長 館 哲二	7
				伝達と報告		
				伝達と報告の扱い方		10
				人口政策の確立	人口問題研究所研究官 館 稔	11

1 9 4 1 年	昭和 16	3	3	風雲急を告ぐる太平洋	湯川洋蔵	15
				大日本青少年団の発足	文部省社会教育官 杉山榮一郎	20
				農機具の配給統制の現状	丹羽四郎	24
				時局回覧板	情報局	26
				協議・懇談・申合せ		
				協議・懇談・申合せの扱い方		30
				五箇条の御誓文奉戴記念日に当りて		31
				大政翼賛運動を推進する常会の任務	伊藤 博	33
				農民魂の錬成に就て	柴 八郎	36
				新入学児童を持つ母親の心得	愛育会病院 加藤種一	38
				学用品の新調を見合わせませう		44
				かうして銃後を守ってゐます		45
				研究・体験発表		
				研究・体験発表の扱い方		50
				我村の労力対策を語る	栃木県足利郡筑波村長 前橋新八郎	51
				アパートの共同炊事―傷痍軍人としての私の体験―	工藤秋津	56
				家庭と婦人	金子しげり	58
				常会とところどころ		
				奈良県下常会の実情を語る	奈良県社会教育課長 田北健一	60
				我が町の常会を語る	広島県比和町長 岡田秀穂	62
				本村部落常会の実際	福井県新横江村長 齋藤三郎兵衛	66
				定紋を掲げて部落常会	大分県 龍後光雄	68
				和楽		
				和楽指導の注意		70
				御民われ		71
				終りの行事		
				終りの行事の指導		81
				日本精神と婦道	三輪田元道	82
				常会の宿	平林廣人	86
				実話		
				興亜奉公日の出来事	朽津久男	77
				◇漫画 頑張村	伊藤公平	76
				◇短歌と俳句		80
				◇編輯後記		88
1 9 4 1 年	昭和 16	4	3	表紙 春来る		
				グラビヤ 内外ニュース・東北の春・隣組運動会		
				◇巻頭言		5
				始めの行事		
				始めの行事の指導		6
				天長節の奉祝	加藤将之	7
				伝達と報告		
				伝達と報告の扱い方		12
				日本をめぐる外交情勢	法学博士 米田 實	13
				翼賛議会の総決算		18
				本年度の国庫予算について	野田澤軍治	22
				部落会と部落農業団体との調整について		26
				本年度の貯蓄目標と国民貯蓄組合法の概要	大蔵省国民貯蓄奨励局 大谷喜代三	29
				時局回覧板	情報局	32
				協議・懇談・申合せ		
				協議・懇談・申合せの扱い方		37
				増産と桑園整理について	丹羽四郎	38

1 9 4 1 年	昭和 16	4	3	4	出生増加と結婚の問題	青木秀男	41
					米穀事情と通帳制について	中島知至	45
					東京遊学の子を持つ者の心得	東京府中等学校補導協会主事 藤岡眞一郎	48
					青少年学徒の食糧増産運動		55
					常会ところどころ		
					東京市の常会の実情	東京市市民局町会課長 山口寛雄	58
					これが我が町の常会	徳島県撫養町長 長谷伊七郎	61
					常会の効果	静岡県庵原郡両河内村助役 宮原多三郎	62
					私共の隣組常会	東京市麻布区富士見町第八隣組長 上野陽一	64
					常会を始めて五年	長野県東條村長 塚本小平	66
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		69
					我村の労力対策を語る	栃木県足利郡筑波村長 前橋新八郎	70
					家庭と婦人	金子しげり	74
					和楽		
					和楽指導の注意		77
					牛来る (脚本)	原田重久	78
					終りの行事		
					終りの行事の指導		82
					太平洋の問題と国民の覚悟	海軍少将 武富邦茂	83
					新しき力		87
					編輯後記		88
1 9 4 1 年	昭和 16	5	3	5	表紙 輝く軍艦旗		
					グラビヤ 夏近し若葉は薫る・耕せ休閑地・生せ空廃地・笑和運動		
					◇巻頭言 指導者とは		5
					始めの行事		
					始めの行事の指導		6
					社会道徳の要	大島正徳	7
					常会の誓		11
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		12
					スパイの魔手から日本を護れ	情報局 湯川洋蔵	13
					本年度の食糧増産目標	柴 八郎	20
					大政翼賛会の改組		22
					時局回覧板		24
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		28
					新商人道に就て	商工事務官 土屋正雄	29
					休閑地及空廃地の利用	農林省嘱託 丹羽四郎	31
					清掃衛生の新体制	川畑愛義	34
					時局と国民の物資報国	横山正一	38
					常会を開く上の注意		41
					常会ところどころ		
					常会日が待遠しい	福島 佐藤庸男	54
					指導者が第一	宮崎県都農町役場書記 河野敏雄	57
					我村の常会を語る	愛媛県溪筋村	59
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		61
					多角形農業経営	岐阜県羽島郡下中島村 後藤源一	62
					本校の学校給食	福島県岩城郡渡辺国民学校長 鈴木永名次	68
					家庭と婦人	金子しげり	71

				腹を決めること		
				和楽		73
				和楽指導の注意		77
				沈黙従軍記（活映脚本）	原田重久	78
				和楽のために		87
				終りの行事		
				終りの行事の指導		82
				「常会の誓」に鍛へよ	古谷敬二	83
				隣組と常会を語る		42
				編輯後記		88
1 9 4 1 年	昭和 16	6	3	表紙 水車小屋		
				グラビヤ 職業転換の準備訓練・翼賛一途の教化村・子供と防空		
				◇巻頭言 常会する心		5
				始めの行事		
				始めの行事の指導		6
				大君に仕へまつる心	大政翼賛会中央訓練所長 八角三郎	7
				伝達と報告		
				伝達と報告の扱い方		10
				臣道実践と大祝式	神祇院教務官 前田勝也	11
				欧州新秩序の建設進む	伊藤 敬	16
				時局回覧板	情報局	22
				協議・懇談・申合せ		
				協議・懇談・申合せの扱い方		26
				金属回収に協力ませう	情報局情報官 石井三郎	27
				転廃業と国民更生金庫		31
				隣組と防空	岡田 正	33
				台所から無駄を省きませう	女子経済専門学校教授 沼畑金四郎	38
				常会ところどころ		
				名古屋市の常会	名古屋市精動課長 石田利作	58
				常会指導の体験と実際	滋賀県苗村助役 菱田貞三	61
				理想郷の建設へ	静岡県和地村長 牧田一十郎	64
				引張られなくとも進む常会	愛媛県菅田村	66
				我が村の常会	宮城県愛島村助役 山崎半十郎	68
				研究・体験発表		
				研究・体験発表の扱い方		42
				職場常会を語る	田中令三	43
				部落共同炊事の実際	兵庫県若狭野国民学校校長 大西源一	46
				家庭と婦人	金子しげり	52
				『肉なし日』に対する心構へ		55
				和楽		
				和楽指導の注意		77
				ほからか部隊記	田中龍男	78
				終りの行事		
				終りの行事の指導		84
				家庭教育を振興せよ	文部省社会教育局長 綾瀬彌三	85
				常会指導虎の巻		72
				編輯後記		88

1941年	昭和16	7	3	7	表紙 那智の瀧		
					グラビヤ 四度迎へる支那事変記念日・大和の大家族翼賛一家・尼寺の託児所		
					◇巻頭言 与へて求めざる心		5
					始めの行事		
					始めの行事の指導		6
					大国民の襟度を持て	陸軍大将 林鉄十郎	7
					常会の誓		10
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		11
					支那事変の特質	陸軍少佐 竹田光次	12
					国民生活動員の意義―生産も生活も国家目的への動員―		19
					再出発の興亜奉公日	伊藤 博	22
					時局回覧板 他力を頼むな科学技術の新体制ほか	情報局	26
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		32
					神棚の奉斎の仕方と神社参拝の作法	神祇院教務局指導課	33
					農繁期の疲労回復と栄養	丹羽四郎	36
					中小事業者の転失業をどうするか	藤島俊	40
					夏の伝染病予防	厚生省予防局 佐藤文雄	44
					農繁期の常会		46
					常会ところどころ		
					自ら實る指導者の努力	兵庫西栗栖村長 栗本實丸	48
					常会で村の陋習を打破	岩手県二子村長 中野牧三	50
					先づ村民の精神訓練を	富山県浅井村長 麻生正蔵	53
					常会のお蔭で能率倍加	佐賀県玉島村長 田中信路	56
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		64
					職場常会をかう開いてゐる	日立製作所日立工場 石井成就	65
					家庭と婦人	大妻コタカ	68
					台所に備へたいもの	女子経済専門学校教授 沼畑金四郎	72
					和楽		
					和楽指導の注意		75
					渡舟小屋 (素人劇脚本)	原田重久	76
					終りの行事		
					終りの行事の指導		81
					人生を不幸にする迷信	高嶋米峰	82
					指導者と教養…文化と生活		86
					常会指導虎の巻 (二)		60
					編輯後記		88
1941年	昭和16	8	3	8	表紙 ラジオ体操		
					グラビヤ 聖戦四周年記念日・水の上にも在る隣組・ラジオによる隣組常会		
					◇巻頭言 開眼		5
					始めの行事		
					始めの行事の指導		6
					祈念の仕方		7
					伝達と報告		
					伝達と報告の仕方		9
					独ソ戦と我等の覚悟	情報局情報官 下野信恭	10
					第一回中央協力会議 重視の的となった 国民保健問題と国民生活新体制		14
1941年	昭和16	8	3	8	商工奉仕委員制度と其の任務	商工省 村田清	18
					時局回覧板 王主席の来訪に躍進する国民政府ほか	情報局	23

1 9 4 1 年	昭和 16	8	3	8	協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		30
					国民貯蓄組合規約の作り方		31
					母と子供を護りませう	厚生省 医学博士 谷口正弘	35
					夏季鍛錬期間をどう過させるか	文部省 田村森次	38
					国策副業 軍用兎の飼ひ方	山崎光美	52
					買物行列をやめませう		46
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		47
					食糧増産と其の推進力	古瀬傳藏	48
					台所に備へたいもの（二）	女子経済専門学校教授 沼畑金四郎	51
					青年輪読会指導の体験を語る	広島県沼隈郡青少年団指導員 梶田改造	54
					家庭と婦人	大妻コタカ	58
					農村の慈母 三代ふさのさん	島根県簸川郡国富村村長 水 政恒	59
					常会現地報告		
					常会運営にも羅針盤が必要	岐阜県上枝村国民学校 老田三郎	62
					常会指導の苦心を語る	栃木県横川村常会主任 石濱茂平	65
					建設的な意見を聴く	和歌山県城山村助役 堀川淳吉	69
					我等の隣組	東京市阿佐ヶ谷第十四区第九隣組 田邊雅教	71
					協力一致	愛知県富士松村長 早川元助	74
					和楽		
					和楽指導の注意		80
					農民歌―「歌と踊り」―		81
					終りの行事		
					終りの行事の指導		85
					実行しませう	宮西一積	86
					常会指導虎の巻（三）		77
					編輯後記		88
					表紙 兎		
					グラビヤ 進め百三十五億貯蓄達成へ青紙召集令・隣組の写真帖より		
					○巻頭言 永遠の今日		5
					始めの行事		
					始めの行事の指導		6
					超非常時下の国民の決意		7
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		10
					破れ対日包囲陣 今ぞ決死覚悟の秋		11
					食料増産の基礎をなすもの	農林省嘱託 丹羽四郎	16
					時局回覧板 英米の日本資産凍結に対して英米の資産を封鎖ほか	情報局	20
					協議・懇談・申合せ・研究・体験発表		
					協議・懇談・申合せの扱い方		26
					防空に備へませう	大日本防空協会主事 富岡東四郎	28
					軽々しいおしゃべりをやめませう		33
					婦人も生産へ協力 働きませう、都会の婦人も		34
					消費を徹底しませう		36
					食料節約に協力しやう		38
					軍人援護と婦人の任務	山根緝一郎	42
					不要不急の旅をやめませう		44
					研究・体験発表の扱い方		45
					如何にして増産をしたか	正木喜一郎	46
					私共の手でこの収穫	東京原区中延町中通町会第九隣組長 田村和平	50

				焼土の中に残れる町	直江甲子三郎	53
				家庭で出来る簡易パン		58
				家庭と婦人	大妻コタカ	62
				常会現地報告		
				話は生活に触れて	佐賀県中通村立農業青年学校校長 下義雄	64
				常会日の旗の下に家族会議	三重県桃取村長 尾崎菊三郎	67
				故老も驚く村民の協力	福島県信夫村国民学校長 橋本喜代次	68
				炭鉱常会	佐賀県産業報国会主事 永竹浩洋	71
				和楽		
				和楽指導の注意		79
				組長自慢	代田重雄	80
				終りの行事		
				終りの行事の指導		85
				恃むは独り自力のみ		86
				常会指導虎の巻 - 4 -		75
				編輯後記		88
				表紙 秋色		
				グラビヤ 氏神様で常会・我に備へあり・隣組と防犯		
				○巻頭言 作物の生命を護るもの		5
				始めの行事		
				始めの行事の指導		6
				持場を守れ	大政翼賛会副総裁 柳川平助	7
				伝達と報告		
				伝達と報告の扱い方		10
				米穀に関係深き二大祭り		11
				波騒ぐ四辺を押し わが鉄壁の経済陣		14
				米の増産奨励金と国家管理	柴八郎	19
				時局回覧板	情報局	22
				戦争物資動員の日		26
				協議・懇談・申合せ・研究・体験発表		
				協議・懇談・申合せの扱い方		27
				国民貯蓄組合の運営		28
				これから始まる冬作食料の増産	農林省 丹羽四郎	31
				寝具をほしませう		34
				突発時と応急炊事に就て		35
				ひとり残らず働きませう		37
				研究・体験発表の扱い方		41
				農繁期と簡易栄養食の作り方	森川規矩	42
				美味しくて滋養分に富んだ蛹食品	渡邊綱男	46
				家庭に備へたいもの	沼畑金四郎	49
				家庭と婦人	大妻コタカ	52
				常会現地報告		
				村の仕事を一つの事務所で	徳島県南井上村長 榎本義夫	56
				常会は難問を解決してくれる	群馬県新屋村	58
				指導者は第一級の人物を	島根県熊野村長 藤田勇市	61
				村民一致の特長發揮	高知県大篠村長 野本源吉	64
				和楽		
				和楽指導の注意		71
				夕焼け雲 (活映脚本)	今井辰夫	72
				終りの行事		
				終りの行事の指導		77

				湧き立つ感謝 燃え立つ援護	軍事保護院総裁陸軍大将男爵 本庄 繁	78
				常会指導虎の巻－ 5 －		67
				新たに出来た部落町内運営の委員会		70
				編輯後記		80
1 9 4 1 年	昭和 16	11	3	表紙 収穫		
				グラビヤ 傷痍軍人の職業補導・栄養食献立配給・家族運動会		
				○巻頭言 心田の開発		3
				始めの行事		
				始めの行事の指導		4
				常会の誓		4
				伝達と報告		
				伝達と報告の扱い方		8
				独逸をめぐる英米ソ三国の動き		5
				来年の食糧はどうなるか	丹羽四郎	10
				生活能率の増進日		12
				時局回覧板	情報局	14
				協議・懇談・申合せ		
				協議・懇談・申合せの扱い方		20
				隣組の図書回覧		19
				母性教育を主眼とした家庭教育相談所	文部省嘱託 吉村桂造	21
				木炭と茶殻を国のお役に立てませう		24
				冬をひかへての家庭安全	家庭安全協会・森脇英男	28
				軍用兎の乾皮の作り方と売り方	山崎光美	30
				物を活かして使ひませう	金子しげり	33
				常会現地報告		
				常会即生活を標榜して	愛媛県三島村長 野地寛	36
				指導者は率先範を垂れよ	岐阜県瑞浪村国民学校訓導 田中静夫	39
				基礎がためは人の和にあり	熊本県南関町長 石井貴道	42
				町民皆働の精神を益々發揮	愛知県吉田町	45
				研究・体験発表		
				研究・体験発表の扱い方		52
				肥料不足をどうして克服したか	伊藤高雄	51
				家庭と婦人	大妻コタカ	54
				隣組農園の手入れ		57
				和楽		
				和楽指導の注意		61
				詩吟		60
				終りの行事		
				終りの行事の指導		63
				新しき生活道徳		62
				常会指導虎の巻－ 6 －		47
				編輯後記		64
1 9 4 2 年	昭和 16	12	3	表紙 初冬の黄昏		
				グラビヤ 農村住宅の改善・金属代用品紹介		
				○巻頭言 賢人と凡人		3
				始めの行事		
				始めの行事の指導		4
				宮城遥拝の仕方		4
				伝達と報告		
				伝達と報告の扱い方		5
				その後の独ソ戦		5

1 9 4 2 年	昭和 16	12	3	12	ゆるぎなき食糧政策樹立を期する緊急食糧対策に就て		9
					時局回覧板	情報局	11
					常会定例日の設定要領		16
					十二月の興亜奉公日の指針		16
					神宮大麻に就て		17
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		20
					冬季に於ける農村の新生活設計図	丹羽四郎	20
					寒さを控へての乳幼児の保健	厚生省人口局母子課技師 医学博士 宇田川與四郎	24
					金属代用品紹介		26
					正月を迎える準備を共同でしませう		28
					常会現地報告		
					銃持つ心で常会に臨まう	静岡県沼津市常会専任指導員 匂坂昇山	42
					突飛な理想を捨て着実な段階を歩め	広島県重井村	45
					部落内の不和反目も解消	富山県櫻井町国民学校長 八尾彦一	48
					常会指導の体験を語る	鹿児島県月野村長 藤屋一郎	51
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		29
					指導者が先頭に立つ結婚改善 静岡県田方郡北狩野村の事例		29
					農村住宅の改善	渡部清之	32
					瓦斯と木炭の合理的な使用法	沼畑金四郎	37
					家庭と婦人	大妻コタカ	40
					和楽		
					和楽指導の注意		59
					隻手の画家	原田重久	58
					終りの行事		
					終りの行事の指導		63
					現代日本人の教養	香坂昌康	62
					常会指導虎の巻 - 7 -		55
					編輯後記		64
1 9 4 2 年	昭和 17	1	4	1	表紙 連峰雲		
					グラビヤ 春駒・日本刀・適性能力検査		
					○巻頭言		3
					始めの行事		
					始めの行事の指導		5
					新生活をうち樹てよう		4
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		6
					米穀の中立法はなぜ改正されたか		6
					町内会に消費経済部を設置		11
					時局回覧板	情報局	12
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		16
					"ヒマ"を空き地に栽培しませう		16
					増税を乗り越えて新生活を		18
					新生活の設計	大日本生活協会常務理事 岸田軒造	21
					現地にみる部落会・町内会の活動(座談会)		44
					常会現地報告		
					常会を教化的に運営	長崎県矢上村長 山口西一	24
					理論のみでは人は動かぬ	愛媛県八幡濱市矢野四町内会長 今田正三	26
					幹部の和合が第一条件	秋田県四ツ小屋村長 榎恒吉	29

1942年	昭和17年	2	4	2	お話の当番に就て	東京吉田五市	32
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱ひ方		35
					隣組内でも開催したい不用品交換会の実際	友の会中央部	35
					部落指導の体験を語る	愛媛県伊予郡南山崎村 澤西東四郎	38
					紙芝居の演出法	日本教育紙芝居協会	40
					乾燥野菜の話	丹羽四郎	42
					和楽		
					和楽指導の注意		54
					詩吟・アンコ慰問・デマ御用心		54
					終りの行事		
					終りの行事の指導		61
					常会のところ	古谷敬二	60
					常会事典 一		57
					編輯後記		64
					表紙 朝陽をうけて		
					グラビヤ 大東亜戦争		
					○巻頭言		3
					始めの行事		
					始めの行事の指導		5
					昭和十七年建国祭を迎へて	昭和十七年建国祭委員長 陸軍大将 鈴木孝雄	4
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱ひ方		6
					大東亜戦争	情報局・長津春雄	6
					祈念祭に就て	神祇院指導課長 伊藤謹二	11
					時局回覧板	情報局	14
					中央より常会に対する徹底事項を重点的に統制		18
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱ひ方		20
					大東亜戦争を勝ち抜く道	情報局・湯川洋蔵	20
					二月の常会徹底事項に就て		23
					部落会町内会の任務に就て		
					大詔奉戴日と常会定例日の一部変更		27
					現地にみる部落会・町内会の活動(座談会二)		49
					常会現地報告		
					常会指導の体験を語る	福島県渡利村 菅野三郎治	30
					盛り上げる力を善導せよ	熊本県高森町女学校教諭 廣松建房	33
					大楠公精神を旨として	神戸市橘通四丁目町内会長 吉谷喜太郎	36
					指導者は安全弁である	佐賀県北多久村国民学校訓導 中島治人	39
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱ひ方		42
					部落別副業指導の体験を語る	青森県農会技手 奈良乾一	42
					婦人会の活動に就て	新潟県高柳村長 石塚常榮	47
					和楽		
					和楽指導の注意		56
					詩吟・和歌朗誦・空中運輸		56
					終りの行事		
					終りの行事の指導		62
					聖旨を奉戴し大御心に答へ奉る	大政翼賛会事務総長 横山助成	61
					常会事典 二		58
					編輯後記		64

1942年	昭和17	3	4	3	表紙 突撃 (海軍省検閲済第三一四六号)		
					グラビヤ シンガポール陥落・シンガポールへ・皇軍ビルマに進撃・南方圏		
					○巻頭言		3
					始めの行事		
					始めの行事の指導法		5
					詔書を拝して	国民精神文化研究所 伊東延吉	4
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		6
					皇軍全東亜を制圧	情報局・長津春男	6
					大東亜共栄圏と食糧問題	丹羽四郎	11
					時局回覧板		14
					大東亜宣言と南方経済建設方針		17
					新增税の話	情報局 白川正中	20
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		22
					衣服の点数制に就て	山高 茂 (旧姓金子)	22
					翼賛壮年団の使命		26
					防空は実戦だ	防空局業務課指導	29
					三月の常会の徹底事項に就て	情報局 湯川洋蔵	30
					現地にみる部落会・町内会の活動(座談会三)		34
					常会現地報告		
					一円融合主義の下に前進	愛媛県中曾根村	48
					彼と常会	足利市通四丁目町内会長 小島重太郎	50
					三十年来の労苦が常会で実を結ぶ	鹿児島県枕崎町	54
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		42
					街を明るくした婦人部の活動	旭川市	42
					二十年の歴史を有つ少年団の道路清掃	静岡県駿東郡静浦村静浦国民学校内道路愛護会	45
					和楽		
					和楽指導の注意		58
					国民詩の朗唱		58
					終りの行事		
					終りの行事の指導		63
					決戦経済へ協力	商工大臣 岸信介	62
					常会事典 三		60
					新婦人団体の下部組織と部落会町内会の関係		57
					編輯後記		64
1942年	昭和17	4	4	4	表紙 靖国の遺児		
					グラビヤ 落下傘部隊・マレー瞥見・小国民の軍人援護		
					○巻頭言		3
					始めの行事		
					始めの行事の指導法		5
					銃後奉公の道	軍事保護院副総裁 三島誠也	4
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		6
					皇軍蘭壕に進撃	情報局・長津春男	6
					翼賛選挙を貫徹する為に	選挙肅正中央連盟幹事 松原一彦	11
					時局回覧板	情報局	15
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		26
					湧きたつ援護・燃えたつ感謝	軍事保護院菊原囑託	26

1 9 4 2 年	昭和 17	4	4	4	一問一答 翼賛選挙早わかり		28
					農民の緊急課題自給肥料の増産	丹羽四郎	30
					子供を強く正しく育てよう	医学博士 宇田川與四郎	32
					四月の常会徹底事項に就て	情報局 湯川洋蔵	35
					部落会町内会運営読本（第一回）	内務省地方局内自治振興中央会常任幹事 上浦種一	47
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		51
					推薦制による長崎の模範選挙	大政翼賛会長崎市支部	51
					軍事援護と国民学校教育		55
					常会事典 4		67
					常会現地報告		
					一人一人の懐に飛び込んで指導	福岡県木屋瀬町社会主事 松尾慶二	58
					形体は整った更に深みと厚さを	大分県西庄内村国民学校長 右田六郎	61
					和楽		
					和楽指導の注意		64
					常会の和楽に就て		64
					終りの行事		
					終りの行事の指導		71
					立派な選挙をやりとげませう	選挙肅正中央連盟理事長 田澤義鋪	70
					常会の話（都市と農村）		19
					東京と隣組（1）	平林廣人	19
					満月の夜の錬成（2）	丸山義二	22
					翼賛選挙貫徹運動基本要綱		50
					翼賛選挙貫徹運動に就て	内務書記官 岡本茂	39
					編輯後記		72
1 9 4 2 年	昭和 17	5	4	5	表紙 海鷲（海軍省許可済第五七一号）		
					グラビヤ ジャバ沖海戦 印度 独逸女子勤労奉仕隊		
					○巻頭言 隣組長と教養		3
					始めの行事		
					始めの行事の指導法		5
					食生活改善	大政翼賛会文化部長 岸田國士	4
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		6
					印度	情報局・長津春男	6
					時局回覧板	情報局	11
					協議・懇談・申合せ		
					協議・懇談・申合せの扱い方		26
					「必勝食生活」を実行しませう	軍事保護院菊原囑託	26
					二百三十億貯蓄をどうして達成するか		29
					五月の常会徹底事項に就て	情報局 湯川洋蔵	33
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		36
					隣組農園の手入れ	大政翼賛会長崎市支部	36
					大東亜戦争に銃後はない（はがき回答）		38
					常会事典 第五回		48
					和楽		
					和楽指導の注意		50
					陸軍現地報道班員の手記 落下傘部隊とジャングル 遼江部隊の劇的握手	郡司次郎正	50
					常会現地報告		
					隣組生活の実際	東京幡ヶ谷本町第六隣組長 寺岡一義	53
					青壮年の熱情こそ民心を動かす力	鳥取県二部村長 安達章治	57

				終りの行事		
				終りの行事の指導		63
				常会を営むこゝろ	中央教化団体連合会常務理事 古谷敬二	61
				俳句		35
				原稿募集		60
				優良部落会町内会指導者に活きた体験をきく		
				校長先生が部落の部隊長	秋田県河辺郡下北手村横森部落会長 松本源太郎	17
				村が昔の和かさをとり戻す迄	宮城県桃生郡大谷地村五十五人部落会長 星巖	19
				凶作また凶作を乗り越えて	福島県耶麻郡関柴村上高額部落会長 遠藤源吾	21
				村長さんは時間厳守の神様	新潟県刈羽郡高柳村山本部落会長 石塚伊三右衛門	22
				漁村を貫くおほらかな気風	富山県氷見郡女良村山中部落会長 田中徳太郎	24
				部落会町内会運営読本(第二回)	自治振興中央会常任幹事 上浦種一	14
				常会の進路 都市と農村		41
				都市の常会	婦人評論家 山高しげり	
				農村の常会	元安行農学校長 富田文雄	
				編輯後記		64
				表紙 勤労の歓び		
				グラビヤ 国民の経済的御奉公は貯蓄により ハーミス		
				号印度洋の藻屑と消える空襲何ぞ恐るべき		
				○巻頭言 金を卑しむ心		3
				始めの行事		
				始めの行事の指導法		4
				大東亜戦争と国民の覚悟	大蔵大臣 賀屋興宣	5
				伝達と報告		
				伝達と報告の扱い方		7
				戦争と貯蓄	内外商業新報社調査部長 前田梅松	7
				時局回覧板	情報局	12
				協議・懇談・申合せ		
				協議・懇談・申合せの扱い方		35
				珍しい貯蓄の方法		34
				六月の常会徹底事項に就て	情報局 湯川洋蔵	37
				常会事典 6		66
				研究・体験発表		
				研究・体験発表の扱い方		43
				「貯蓄報国の村」へと一路邁進	宮城県名取郡愛島村貯蓄奨励主任 阿部幸次	43
				医療切符を返納してつもり貯金を	常木まさい	47
				我が村の共同貯蓄	栗賀国民学校長 吉識義一	50
				和楽		
				和楽指導の注意		65
				七軒の家の人達が	露木 豊	64
				終りの行事		
				終りの行事の指導		71
				新しい生活の考へ方とその生活様式	大日本報徳社副社長 佐々井信太郎	68
				俳句		
				貯蓄の源泉を探す座談会 1		16
				生活の無駄を探す(はがき回答)		22
				優良部落会町内会指導者に活きた体験をきく		
				指導者は絶えざる自己反省を	東京府西多摩郡霞村鹽船部落会長 橋本山造	53
				五人衆の昔から争のない村	石川県羽咋郡西増穂村酒見部落会長 堀金松	54
				隣保館を中心に団結する村民	岐阜県大野郡上枝村下林部落会長 大川甚作	55
				増産は先づ生活改善より	三重県安濃郡明合村野口部落会長 紀平録衛	56

1942年	昭和17	7	4	7	共同作業により労力不足を克服	兵庫県加古郡八幡村中西條部落会長 山本菊治	56
					町発展の推進力となった陸会	静岡県沼津市大手町内会評議員 名取榮一	57
					法と規則のみで部落の指導者は出来ぬ	岡山県浅口郡六条院町義勇社部落会長 清水弓太	60
					常会の出席率は百パーセント	広島県佐伯郡平良村第三区会長 松井軀一	61
					部落を六班に分け共同炊事を実行	熊本県鹿本郡千田村奥永部落会長 杉焼末廣	62
					留守居をにおいて全部が常会に出席	熊本県下盛城郡中山村西山部落会長 川上保作	63
					部落会町内会運営読本（第三回）	自治振興中央会常任幹事 上浦種一	40
					編集後記		72
					表紙 灯台（許可済）		
					グラビヤ 戦闘食の製作 隣組に結ぶ 冷凍船		
					○巻頭言 素朴の強味		3
					始めの行事		
					始めの行事の指導法		5
					日本人の心	大政翼賛会事務総長 後藤文夫	4
					伝達と報告		
					伝達と報告の扱い方		7
					苦悶する重慶政府	大本営陸軍報道部陸軍少佐 竹田光次	7
					大東亜戦争と海運	海務院総務部情報課	11
					時局回覧板	情報局	14
					協議・懇談・申合せ		
1942年	昭和17	8	4	8	協議・懇談・申合せの扱い方		22
					国民の一人残らずが防諜の戦士	編集部	22
					七月の常会徹底事項に就て	情報局 湯川洋蔵	26
					都市民に対する氏子観念涵養方策に就て	中央教化団体連合会教化問題調査会制定	29
					常会事典 7		57
					研究・体験発表		
					研究・体験発表の扱い方		40
					農村に於ける燃料の無駄排除	栃木県筑波村村長 前橋新八郎	40
					米穀増産の体験を語る	青森県浅瀬石村農会	44
					和楽		
					敵弾下の二等兵	萩原四郎	54
					終りの行事		
					終りの行事の指導		63
					盂蘭盆と報恩の観念	加藤咄堂	60
					俳句		25
					貯蓄の源泉を探す座談会 2		31
					部落会町内会運営読本（第三回）		18
					私の体験		
					町内会長覚書	鎌倉市材木座町内会長 大島十九郎	46
					都市郊外地の隣組の運営	井之頭町内会第十一隣組長 山田義雄	49
					編集後記		64
1942年	昭和17	8	4	8	表紙 水車		
					グラビヤ 造船の譜 我が強襲下のアラスカ 工作艦		
					○巻頭言 生活の核心		
					国民錬成の根本目標	藤澤親雄	4
					威信地に墜ちた米英		7
					海軍魂を語る	海軍省嘱託 岩田岩二	50
					時局回覧板	情報局	21
					八月の常会徹底事項に就て	情報局 湯川洋蔵	24
					隣組の生活を語る		26
					隣組に教へられる	評論家 新居格	26

				隣組あれこれ	婦人作家 生田花世	34
				農繁期の村を視る—農繁期の労力節約法色々—	産業組合中央会 山崎光美	44
				部落会町内会運営読本 第五回	自治振興中央会常任幹事 上浦種一	54
				ビルマ戦線を征く 陸軍報道班員の手記	陸軍報道班員 若林政夫	57
				国民生活の規準化	大日本生活協会常務理事 岸田軒造	11
				常会の運営		35
				俳句		47
				座談会 指導者の養成に就て		14
				常会現地報告		
				水害の村に育まれた常会	茨城県飯沼村長 吉田嘉衛門	36
				常会を中心に躍進する町	金沢市茶臼町会長 二木庄太郎	40
				常会事典		48
				編輯後記		64
1942年	昭和17	9	4	表紙 安南学童の絵		
				グラビヤ 常会に侍従を御差遣 新聞が出来るまで 指人形芝居		
				隣組と文化	大政翼賛会文化部長 高橋健二	4
				巻頭言 勝ち抜くための生活態度		3
				都市の隣組と文化	東京日日新聞社取締役 阿部眞之助	7
				農村文化と隣組について	丸山義二	12
				隣組文化に確たる指導性を	鎌倉文化協会 木村彦三郎	16
				九月の常会徹底事項に就て	情報局 湯川洋蔵	26
				時局回覧板	情報局	23
				壁新聞に就て	大政翼賛会宣伝部副部長 川本信正	20
				部落会町内会運営読本 第六回	自治振興中央会常任幹事 上浦種一	28
				常会の儀礼と作法		32
				常会事典		36
				隣組文化と音楽	堀内敬三	38
				隣組と国民皆読運動	横浜市鶴見区生麦町つゝ、じヶ丘町内会長 高橋慎一	46
				隣組と年中行事	編集部	44
				国民学校に学ぶ	元国防婦人会沼津市市場町班長 池田千枝	50
				私達の演劇隊が進んだ途	沼津市青年演劇隊指導者 生澤 淳	41
				常会現地報告		54
				温泉街の優良町内会	宮城県玉造郡鳴子町湯本北町会長 田中良吉	54
				先づ町民の生活改善から	愛媛県宇摩郡三島町西町第十町会長 石川正義	57
				ひっぱり力に應へる力	神奈川県小田原市第八区町内会長 曾我卯之輔	62
				指人形芝居の操作と脚本	堀尾 勉	64
				新農村の胎動 兵庫県菅田村の共同作業と共同炊事	丸山義二	68
				常会の運営		53
				俳句		43
				編輯後記		72
1942年	昭和17	10	4	表紙 大根		
				グラビヤ 戦地の兵隊さんへ 炭を焼く人々 昭南島の日本語熱		
				巻頭言 団体活動の調整		3
				今後の常会指導 世話役・世話人の重大なる役目	大政翼賛会国民生活動員本部副部長 伊藤 博	17
				翼賛会の指導組織に部落会と町内会		21
				時局回覧板	情報局	23
				十月の常会徹底事項に就て	情報局 湯川洋蔵	27
				特輯 婦人と隣組		
				婦人と隣組の活動	松岡久子	34
				隣組と婦人の生活	婦人評論家 阿部静枝	30
				隣組と婦人の教養	高良富子	12

1942年	昭和17	11	4	11	農村婦人と隣組	新潟県刈羽郡高柳村婦人部長 佐藤栄苧	38
					部落会町内会運営読本 第七回	自治振興中央会常任幹事 上浦種一	41
					大日本婦人会の下部組織に就て	市川房枝	4
					大日本婦人会支部設立に就て	平塚市民課長 吉原英之助	15
					婦人と配給の問題	山高しげり	9
					現地報告		
					侍従御差遣の榮譽に輝く常会	千葉県豊浦村長 篠塚正樹	46
					荊の道を経て表彰を受けるまで	広島市牛田町南区町内会長 森田勇	50
					若き世代に囑目して優良長会を築くまで	東京本所区江東端三丁目町会長 福島市蔵	53
					常会事典		56
					感心した軍人援護の話		61
					神嘗祭と新嘗祭	神祇院教務官 小林巖雄	38
					常会の運営		45
					俳句		40
					編輯後記		64
					表紙 刈入れのよろこび		
					グラビヤ 銃後に負けるな 豊年 隣組記		
					巻頭言 都会の生活		3
					国家と馬産	農学博士 小野武夫	4
					家庭簿の利用を提唱す	青山留雄	12
1942年	昭和17	12	4	12	時局回覧板	情報局	19
					十一月の常会徹底事項に就て	情報局 湯川洋蔵	23
					◇下部組織の強化策に就て		28
					部落会町内会隣組の常会強化を	広島県佐伯郡平良村長 枝松五六	28
					部落の特性を活かし育てよ	青森県北津軽郡梅澤村沖部落会長 菊池権太郎	
					隣組を通じて生活新体制を	全国友の会中央委員 大阪市 桐淵とよ	33
					常会事典		50
					食料の計画増産に就て	丹羽四郎	26
					栄養食献立材料配給所	下落合第一家庭国民食献立材料配給組合評議員 久村慶一	7
					行列買の廃止を	評論家 山高しげり	16
					座談会 都市と農村の問題	斎藤响・菅原兵治・宮西一積	36
					町会日記余白	大島十九郎	54
					文化映画 隣組記		57
					常会の運営		53
					俳句		25
					編輯後記		64
					表紙 貯金箱		
					グラビヤ 気字は大きく さあもう一踏張りだ 抑留邦人非道の取扱		
					巻頭言 貯蓄は戦争行為		3
					勝って兜の緒を締めよ	海軍大将本会理事 野村吉三郎	4
1942年	昭和17	12	4	12	大東亜戦争第二年を迎えるにあたりて	陸軍省報道部陸軍少佐 竹田光次	6
					戦ひは正にこれからだ	大本営海軍報道部海軍少佐 富永謙吾	11
					誓って戦ひに勝ちぬかん—大東亜戦争一周年を迎えて—	法学博士 米田 實	14
					大東亜戦争日記抄	情報局 長津春男	18
					時局回覧板	情報局	22
					十二月の常会徹底事項に就て	湯川洋蔵	27
					優良国民貯蓄組合を訪ねて		30
					貯蓄の醍醐味を味って御奉公	東京五反田一丁目国民貯蓄組合	30
					共同責任を以て目的額達成へ	千葉県主基村国民貯蓄組合 村長太田友次郎	33
					団体貯蓄の草分け	東京道々橋町国民貯蓄組合	37
					優良組合は一朝にして生れぬ	広島県平良村国民貯蓄組合 村長枝松五六	42

				部落会町内会運営読本（第八回）	自治振興中央会常任幹事 上浦種一	49
				町内会消費経済部は如何にして設置するか		54
				常会現地録音	香川県文谷彌作、神戸川崎重工業神山榮三、三重県柘植町宮林笑波	56
				常会事典		60
				ある山村に於ける「移動託児所」の経営	岡山県吉備郡福谷国民学校長 森 金治	46
				続町会日記余白	大島十九郎	62
				常会の運営		59
				俳句		45
				編輯後記		64
1943年	昭和18	1	5	表紙 神将		
				写真の頁 農村新年 東洋の凱歌		
				巻頭言 岩戸開き		4
				総てを戦ひに勝つために	大政翼賛会事務総長 後藤文夫	4
				征戦第三年を迎へての新たな覚悟と南方建設の現況	陸軍省報道部陸軍少佐 竹田光次	6
				部落会・町内会の新たに進むべき途	茨城県古河町長 永井三郎	14
				隣組の新たに進むべき途	鳥取県農村文化協会々員 四宮守正	20
				我が隣組の新設計図	尾崎喜八	54
				部落指導の体験を語る		40
				決戦体制の我が部落	千葉県御宿町高山田部落会長 瀧口武男	40
				部落指導の新方向	滋賀県蒲生郡苗村助役 菱田貞三	49
				部落会・町内会運営読本（第九回）	上浦種一	36
				時局回覧板	情報局 湯川洋蔵	25
				一月の常会徹底事項に就て	情報局	28
				勝ち抜くための国民運動	大政翼賛会	30
				年末年始をかうして迎へませう		35
				隣組の集中援護で貯蓄増強に邁進	東京・淀橋百人町南町会	56
				常会事典		60
				村の校長さんを語る	岡山県高陽村村長 國鹽達太	62
				常会現地録音	岡山市 道垣内正一	53
				俳句		71
				編輯後記		72
1943年	昭和18	2	5	表紙 働く女性		
				巻頭言 家族国家		
				神国の顕現－紀元節を中心として－	神祇院教務官 小林巖雄	4
				昭和十八年建国祭を迎へて	建国祭委員長海軍大将 高橋三吉	21
				国民皆働運動	大政翼賛会厚生部長 桐原葆見	8
				二月の常会徹底事項に就て	湯川洋蔵	15
				強力農村の建設とその対策	愛知県知多郡八幡町 久野庄太郎	18
				医療切符の消費節約競技－山梨県武川村に於ける－	山梨県武川村新聞発行者 蔦木明宜	34
				配給品台帳に就て	大森利球治	32
				町と村の常会演劇について	長野県北佐久郡中佐都村村会議員 小平 茂	37
				農村の副業としての「草木染織物」	長野県埴科郡東條村産業組合常任幹事 中村 端	41
				部落会指導の体験を語る		22
				我等の部落会は如何に進むべきか	佐賀県中通村国民学校長 下 義男	22
				部落民個々の特異性を尊重	茨城県美並村鈴之内部落会長 堀越 誠	25
				常会事典		47
				女性と勤労	厚生省勤労局 谷野せつ	11
				主夫の勤労報国指導と宮園町婦人部の活動	東京府中野授産場長 亀井 孝	50
				女子親切部隊の活動に就て	東京市蒲田区役所親切課長 大友 瞭	53
				秋の農村を手伝って	東京市麹町区東郷女子青年団 松下日出子	60
				無医村の記	山形県西村山郡大井沢村 志田周子	56

1943年	昭和18	3	5	3	常会現地録音	高知市 横堀常範	45
					俳句		17
					常会の運営		31
					巻頭言 隣組長につきぬ感謝	大政翼賛会実践局長 相川勝六	3
					戦ふ隣組	中央教化団体連合会常務理事 古谷敬二	4
					玄米食について	大政翼賛会国民生活動員本部副部長 伊藤 博	8
					衣料生活第二年も創意と工夫で勝ち抜かう	岡田正一	20
					三月の大詔奉戴日について		45
					三月の常会徹底事項に就て		14
					時局回覧板	情報局・湯川洋蔵	15
					「貯めよい有利な」貯金の話	貯金局	43
					部落町内会運営読本（第十回）	自治振興中央会常任幹事 上浦種一	11
					戦ふ部落会・町内会		
					町は教室町民は生徒	東京四谷本村町町内会長 大元茂一郎	24
					町内会活動と隣組合同常会	福島県大町町内会長 白石辰之助	28
					計画は直ちに実践へ	千葉県神埼町第一・第二町内会長 寶田 直	31
					共同体制則決戦体制	徳島県赤河内村原ヶ野部落会長 原 寛一	34
					我が部落の活動	群馬県西横野村上人見部落会長 塩谷神酒造	38
					戦ふ隣組	編集部編	46
					ふくれぬ運動明朗長会（東京）		
					読書も隣組単位で文化隣組（大阪）		
					応召八百屋隣組拳つて援護（東京）		
					金属供出展家に残るは火箸二本（奈良）		
					産業戦士の家庭を守る愛の隣組（東京）		
					隣組と母の精神 横浜市の子供の家に就て	横浜市嘱託 吉田仁吉	52
					組合青年学校の運営—滋賀県田根村他三ヶ村に於ける—	滋賀県田根村長 速見宋兵衛	56
常会事典		50					
村を貫き流れるもの—愛知県寶飯郡鹽津村を訪ねて—	愛知県鹽津村	58					
俳句		64					
1943年	昭和18	4	5	4	巻頭言		5
					二百七十億貯蓄達成へ	日本産業経済新聞社企画局次長 前田梅松	6
					二百七十億貯蓄に処する生活様式	小林四枝	14
					米の供出と食糧増産	丹羽四郎	10
					増税と戦時生活	編集部	20
					時局回覧板		22
					四月の常会徹底事項		13
					町村会と部落会		
					建設函による町内会の運営	小松市本鍛冶町町内会長 今井外吉	32
					町会と隣組	東京淀橋百人町南町会長 三神順次	36
					部落常会指導に就て	三重県島ヶ原村国民学校長	38
					常会事典		48
					東京市に於ける常会指導の実際	東京市戦時生活局町会課長 山口寛雄	41
					赤ちゃん常会を開くまで	澤田しげ	26
					自家保有米も供出	千葉県香取郡豊浦村長 篠塚正樹	54
					土に生き抜く 生土会に就て	和歌山市郊外岡崎村生土会副会長 坂口 繁	51
					喰べられる野の草・庭の草	東京帝大理学部小石川附属植物園園芸主任 松崎直枝	57
					衣類の永保ち法に就て	東京 川村道子	31
					隣組郵便函	小林明	25
					組長談義	東京在原中延町 田村和平	43
					独裁隣組長	高崎市松場町第八班組長 木下幸志	46
					村を貫き流れるもの—愛知県寶飯郡鹽津村を訪ねて—		61

					俳句		68
					巻頭言		5
					兵農一如の精神—北海道開拓の防人魂について—	丸山義二	6
					農村に於ける工場と農村の融合に就て	早大教授 今和次郎	11
					部落会町内会運営読本 (第十回)	自治振興中央会常任幹事 上浦種一	16
					時局回覧板	情報局 湯川洋蔵	20
					五月の常会徹底事項		15
					東京市の町会隣組の強化策	東京市嘱託 平林廣人	52
					座談会 中堅青年の語る戦ふ農村		24
					我が村の総動員態制	広島県世羅郡西大田村長 近藤正念	34
					大型焼夷弾と戦ふ 我が町の防空態制 東京銀座四丁目町会	築地警防団副団長、四丁目町会副会長 保坂幸治	40
					大型焼夷弾と戦ふ 一分廿秒で鎮火	銀座四丁目第三家庭防空群長 栗本豊治	
					婦人組長さんと野菜貯金 東京府浅川町		44
					試練に耐へぬく隣組 東京麹町区麹町二丁目町会	東京麹町区麹町二丁目町会長 堀真琴	46
					隣組農園と共同内職 西宮市曙町曙赤心会	大政翼賛会推進員、壮年団班長 石田惣一郎	48
					其の後の赤ちゃん常会	東京豊島区要町一丁目町会母性補導委員 澤田しげ	50
					常会の運営		39
					続 食べられる野の草・庭の草	松崎直枝	59
					銃後を護る人々	簡易保険局規画課 村井修一	56
					提案 隣組日記		33
					俳句		64
					巻頭言 隣保消化		3
					人と物と金	早大講師大蔵省嘱託 野田澤軍治	4
					座談会 都市と農村の貯蓄		10
					貯蓄行脚随想—東芝愛宕警察署長さんの—	愛宕署長 山縣為作	22
					農村への報告—戦ふ都市の立場を語る—	評論家 新居 格	26
					都市への報告—農村の明暗二面を語る—	元安城農学校長 富田文雄	30
					葉書回答—国債々券の割当規準—		12
					時局回覧板	湯川洋蔵	35
					六月の常会徹底事項		9
					部落会町内会運営読本 (第十一回)	自治振興中央会常任幹事 上浦種一	46
					東京市町会隣組の第三次強化策 戦時体制の確立について(二)	東京市嘱託 平林廣人	52
					決戦下お互の常会を反省して見ませう		45
					農繁期保育所の開設期に際して	愛育会研究所員 三木安正	38
					常会と言葉	東京市向島曳舟国民学校教頭 川田千之	42
					提案 粃を生かせ	農林省農事試験場技師 大谷義雄	21
					隣組農園の手入れ	小石川植物園 西田一聲	25
					俳句		56
					原稿募集		34
					巻頭言 勝ち抜く道		3
					道徳的精神の昂揚	大島正徳	4
					農村文化のありかた	最上共働村塾主 松田甚次郎	8
					隣組新聞の発行	詩人 高橋掬太郎	36
					少年奉公隊	佐賀県北茂安村国民学校教頭 太田久四郎	18
					時局回覧板	情報局 湯川洋蔵	30
					七月の常会徹底事項		15
					文化人と隣組	立教大学教授・隣組長 辻 莊一	12
					山羊の乳と幼児	徳島県南井上村山羊組合営業主任	21
					子供隣組便り	小国民文化会員 松葉重庸	34
					提案		41
					戦時下の七夕祭	東京 寺岡生	41

1943年	昭和18	8	5	8	備急食糧	三重 つくし生	41
					回覧板	静岡 野島太計治	42
					回覧板雑記	下関市 前田喜代人	43
					常会研究（1）		28
					隣組農園の手入	小石川植物園 西田一聲	33
					全村改良の便所	愛媛県宇摩郡燕崎村長 三本 享	24
					月番で献金	東京日本橋芳町第十三隣組長 光藤計造	16
					盆踊り	日本民謡協会理事 小寺融吉	44
					戯曲 柿の木校長		49
					常会典範としての十七条憲法（一）	平林廣人	52
					貯蓄奨励活映脚本当選発表		55
					俳句		56
					巻頭言 勤労と消費		3
					戦時衣食住観	毎日新聞社文化部次長 黒崎貞治郎	4
					服装について	評論家 古谷綱武	10
					今年の食糧問題	衆議院議員 助川啓四郎	14
					住宅の決戦態制	農地開発営団建築課長 竹内芳太郎	18
					戦時生活と保健衛生	医学博士 竹内茂代	32
					時局回覧板	湯川洋蔵	24
					八月の常会徹底事項		9
					汁 請	東京文理大助教授 肥後和男	22
1943年	昭和18	8	5	8	父松崎大尉の思ひ出	松崎直枝	46
					耕地の交換分合とその実例	丹羽四郎	36
					地方便り		
					畜産婦人会	島根県飯石郡西須佐村 佐貫繁雄	54
					後家隣保班	大分県宇佐郡八幡村宮小路部落会長 小野精一	54
					組長雑感	吉本茂樹	55
					常会典範としての十七条憲法（二）	平林廣人	50
					我が町会の国債債権の割当は斯うして決める	東京下谷西黒門町町会長 池田雅之助	44
					通達二時間で—全町旗の波	岐阜県郡上郡八幡町	42
					町会と結婚相談部	東京・亀戸八丁目町会結婚相談部長 泉勘次郎	40
					隣組農園の手入		13
					葉書回答・衣食住の無駄		28
					村長さんの贈物-猫車-		31
					俳句		56
					巻頭言 治人と治法		3
					町内会部落会等の法制化に就いて	内務事務官 小林與三次	4
					起ち上るビルマ—ビルマ宣言書を中心に—		19
					世界戦局の新様相	陸軍報道部陸軍中佐 竹田光次	14
					甘藷先生	菅原兵治	24
1943年	昭和18	9	5	9	提案（甘藷増産の競進会）	静岡・柴松生寄	27
					学童と家庭常会	徳島市八萬国民学校長 大谷幹男	36
					吾が部落の栄養改善に就て	山形県本庄村	28
					常会の反省		13
					建設函		
					慰問文	札幌市 吉江洗穂	42
					共同購入	大阪市隣組長 山口市常	43
					隣組農園の手入		40
					工場隣接村の立場	群馬県邑楽郡長柄村	32
					十七条憲法（三）	平林廣人	44
					俳句		48

1943年	昭和18	10	5	10	巻頭言 急用に急ぐべからず		1
					常会指導の新段階—教化常会私案—	東洋大学教授・本会幹事 宮西一積	2
					バドリオ政権の裏切	法学博士 米田 實	9
					決戦下の国民食糧	第七陸軍航空技術研究所長・陸軍主計大佐 川島四郎	12
					酒と菓子の総合配給	鎌倉市市民物資課長 杉山誠一	22
					常会と国民貯蓄	高山市天満町四丁目町内会長 杉下友之助	28
					国策の生活化—東京・四谷一丁目町会長に訊く—	東京・四谷一丁目町会長 案田八郎	26
					村有畑利用による防貧策	広島県御調郡重井村長 村井忠五郎	32
					部落有山林に培はれる共同精神	千葉県御宿町高山田部落会長 瀧口武男	35
					俸給制による部落の共同耕作—立野農事実行組合—		38
					わが村長を語る	青森県北津軽郡中川村沖飯詰国民学校長 和田博	41
					供出の心	茨城県結城郡飯沼村長 吉田嘉右衛門	44
					常会典範としての十七条憲法	平林廣人	15
					漫画		
					貯金は戦力	芳垣青天	20
					あの手、この手 貯金虎の巻	筑摩鐵平	20
					俳句		47
1943年	昭和18	11	5	11	巻頭言 指導者の道		1
					血戦必勝の態勢	野田澤軍治	2
					農工協力の秋	農学博士 小野武夫	8
					土は母にぞある	日本農士学校検校 菅原兵治	11
					部落史の究明—運営の基礎として—	栃木県上都賀郡板荷村第三部落会長 渡邊保一郎	16
					災禍に学ぶ		14
					決戦生活		36
					隣組農園の手入		22
					拝む心で貯蓄奉公	沼津市千本常磐町町会長 米野與七郎	24
					冠婚葬祭節約貯金	奈良県山邊郡二階堂村備前部落会長 安浪芳文	32
					炭焼きの村	埼玉県大瀧村長 磯田正則	28
					国民座右の銘		41
					建設函		
					電髪	良翁	38
					隣組常会で俳句	神戸市 神山栄三	38
					決戦食 隣組研究会	札幌市 吉江洗穂	39
					提案		
					弾丸切手による貯蓄の例	下関市入江北町町内会庶務部長 前田喜代八	40
					隣組常会に反省の時間を設けよ	実行生	40
1943年	昭和18	12	5	12	翼賛会中央指導員		35
					平田精神に生きよ	県立秋田図書館長 小野 襄	42
					俳句		47
					巻頭言 勝利の栄冠		1
					戦争は一面お金を貯め抜く競争だ—戦局の進展と貯蓄の意義—	日本産業経済新聞社企画局次長 前田梅松	2
					比島の独立に就いて—先進日本国民の心構へ—	比島独立準備委員 大島正徳	7
					常会の正しい開き方		20
					現地報告		
					児童と青年の貯蓄	青森県東手内村松ノ木国民学校長 中村政勝	10
					わが部落の貯蓄	兵庫県神埼郡粟賀村加納 高橋大治郎	12
					我が村の貯蓄	富山県射水郡二口村長 宮長平蔵	14
					俳句		23

1944年	昭和19年	1月2月合併号	6	1	巻頭言 決戦への捷徑		1
					思想指導の要	宮西一積	2
					空襲に備へて完全家事を致しませう	小林四枝	4
					防空大運動会	東京・目白四丁目町会副会長・立教大学教授 辻莊一	8
					常会座談問答 生活の科学化の意味を誤るな	上野陽一	12
					常会指導のコツ		13
					国民学校集団勤行の実際一九ヶ年の回想一	佐賀県西松浦郡黒川村国民学校長 近藤薫	16
					部落更生と食糧増産 石川県月津村柴山部落	石川県月津村収入役 東清一	20
					三十年前の生活に返れ	宮城県本吉郡鹿折村長 小野寺傳九郎	22
					俳句		19
1944年	昭和19年	3	6	2	巻頭言 一月十円の生活費		1
					第二線のきぼう時	大本営報道部陸軍中佐 秋山邦雄	2
					今次戦の特質と決戦生活動向	法政大学教授・翼賛会中央指導委員・経済学博士 高木友三郎	6
					貯蓄目標に突撃 皆なで応能貯蓄に努めませう	大蔵省	10
					春の農園の手入		9
					野菜の栄養について	元農業世界主筆 野崎信夫	12
					甘藷と麦を主食として	宇和島市郊外九島 土居清五郎	17
					斯くして暗渠排水を完遂 村民総結束に挙がる凱歌	静岡県桜木村耕地整理組合総部長 荒川兎志雄	14
					農聖石川翁の克己に学べ	石川翁研究家 兒玉庄太郎	20
					建設函		
					車内隣組	東京 土井生	5
					決戦議会より国民生活の指標		23
					俳句		9
1944年	昭和19年	不明	6	3	所在不明		
1944年	昭和19年	不明	6	4	所在不明		
1944年	昭和19年	7	6	5	闇取引と遵法精神	司法省刑事局経済課 司法事務官 八木胖	3
					困ったことが有難いこと	菅原兵治	6
					決戦生活の確立	高神覚昇	8
					決戦下町村の指標(下)一貯蓄増強と健民健兵一	富田文雄	11
					供出米の割当と報奨制	茨城県飯沼村長 吉田嘉右衛門	14
						秋田県南内越村長 田口清一郎	16
						岡山県高陽村長 国塩達太	17
						千葉県豊浦村長 篠塚正樹	20
					竈の改造法	大分県 玉野井伴吉	21
					俳句の話	甲田鐘一路	22

¹ 「社会教化活動の強化」(学制百年史編集委員会『学制百年史』1972年、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317713.htm)

² 山本悠三『近代日本の思想善導と国民統合』校倉書房、2011年、18～19頁。

³ 『教化運動』誌は大分大学・国立国会図書館など所蔵が極めて限られており、当時の中央教化団体連合会の姿が捉えにく

かった。これに対し、不二出版が2018～2019年にかけて刊行する復刻版(総目次・索引付き)により、研究基盤が整いつつある(解説・須田将司)。

⁴ 拙著『昭和前期地域教育の再編と教員』(東北大学出版会、2008年)の第1章で論じている。

⁵ 前掲、山本悠三『近代日本の思想善導と国民統合』509頁。

⁶ 何よりも雑誌『常会』の復刻版刊行が望まれる。